

第2回データ活用推進有識者会議 ～データ活用における「プロトタイピング」～


株式会社データビークル 取締役
西内 啓

まずは参考事例から

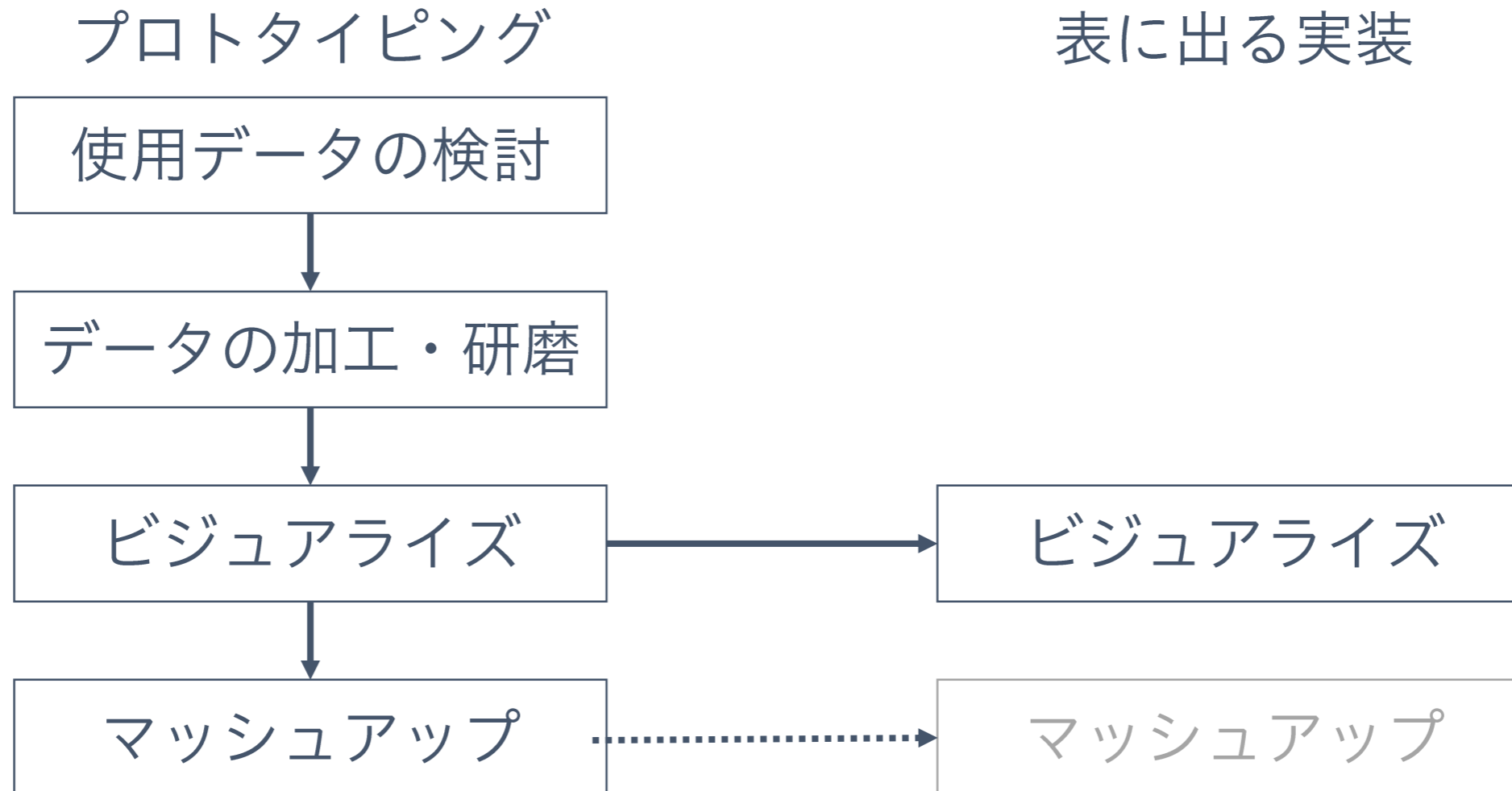
RESAS

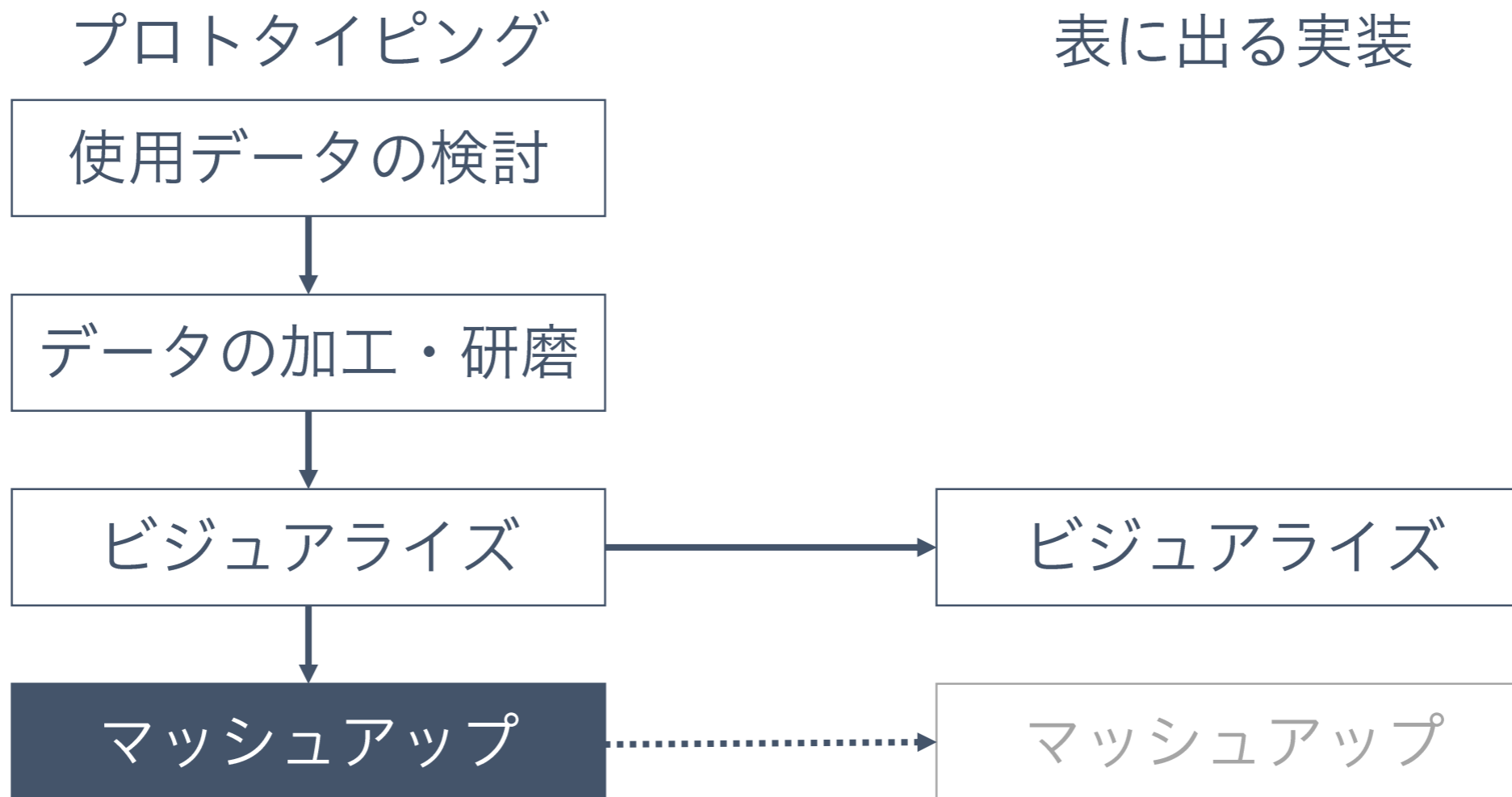
Prototype version



-  産業取引
Industry Transactions
-  サプライチェーン
Supply Chain
-  人口動態
Population Dynamics
-  人口流動
Population fluidity







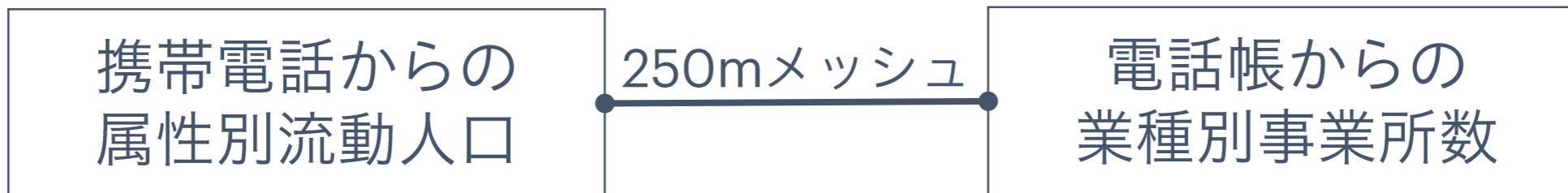
マッシュアップとは

もともとの意味は
「DJが複数の素材を組み合わせる新しい音楽を作ること」
転じて複数のデータソースから
新たな価値を生む情報やツールを作る行為

知的財産を経済成長に



サービス産業の適正出店を支援

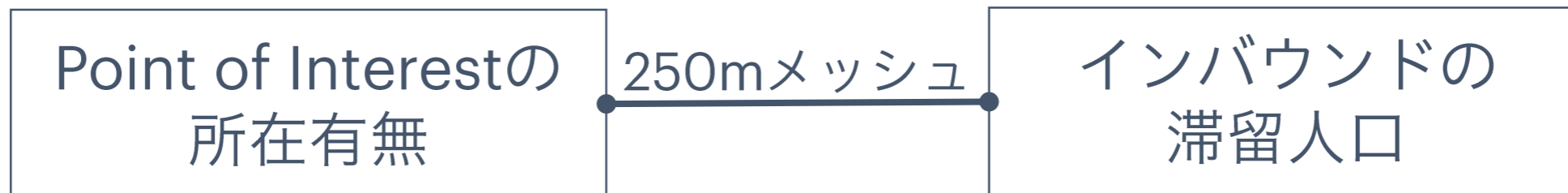


マッシュアップの背景

徹底的なエビデンス(実証研究)レビューから
経済成長に寄与しうる要因を明らかに

人口あたり特許件数および
サービス産業における人口密度が重要と判断

インバウンドの成功の鍵を



全国的に売れる特産品を



売上に繋がるブランディングを



プロトタイピングの重要性

自動車における「コンセプトカー」と同様に
近未来の「あるべき姿」と
「実現できる姿」を関係者で共有

マッシュアップでデータの価値はさらに大きく

データが揃った今はプロトタイピングに良い機会

「あるべき姿」の提示で「鶏と卵」状態から脱却を